



「奈良大学図書館情報学研究会 ～ NATOKEN の試み～」

文学部文化財学科教授 嶋田 学

CROSS OVER

令和元年10月より、司書課程履修者に呼び掛けて「奈良大学図書館情報学」(略称：NATOKEN)を発足しました。基本的には学生自身が興味を持った活動を進めていくことをコンセプトにし、「図書館についての研究」、「図書館司書採用試験対策に関する学習」、「他学の図書館情報学研究団体との交流活動」、「活動内容を学外へ発信」(例：「ビブリオバトル」「読み聞かせ」「調査・研究の発信」)などを行っていきこうということになりました。

例えば学生たちと研究してみたいことに、住民との協働による図書館整備・運営というテーマがあります。岡山県瀬戸内市では、住民とのワークショップを重ねる中で「図書館整備基本計画」を策定し、瀬戸内市民図書館を開館させ、図書館友の会との協働による文化事業の実施を行っています。

人口減少社会を迎えた地方自治体では、今後のまちづくりをどのように進めていくかが喫緊の課題です。それは、このまちの歴史や文化について知り、現代という状況も踏まえつつ、まちの未来を展望することだと言えるでしょう。地域の歴史や文化を知るには資料が必要です。また、世界での同時代的な課題を知るには、ネットも含めた幅広い情報が必要です。そして、まちづくりという多様で多彩なテーマを検討するには、それぞれの住民の興味関心にあった対話をつくる「場」が必要となります。

地域コミュニティを豊かにする社会関係資本を醸成する場として、アメリカの社会学者であるレイ・オルデンバーグが提唱した「第三の場」(サード・プレイス)が注目されました。まさに図書館は「情報のある広場」として人々の学びと対話を醸成する公共空間として機能するのではないかと期待されています。司書は、単に資料・情報の提供者として座して人を待つのではなく、現代社会の様々な課題に向き合うこととなる市民を気付きや学びの入口に案内する、情報の水先案内人でなくてはならないでしょう。

AIの発展が、人や社会のあり方を変えるかもしれないと言われています。一方で、情報の処理や活用をAIが担うのであれば、今こそ人は「生命・生活」といった「時間の消費」を充足することが大切ではないかという議論もあります。

司書という仕事は、まさにまだ見ぬこの領域に、広くて深い役割があるのではないかと思います。そうしたことを、NATOKENの学生とともに探っていければと考えています。

奈良大学 図書館情報学 研究会

NATOKEN

開催日 毎週木曜5限目
場所 A407 嶋田研究室

主な活動内容

- ・ 図書館についての研究
- ・ 図書館司書採用試験対策に関する学習
- ・ 他学の図書館情報学研究団体との交流活動
- ・ 活動内容を学外へ発信

例：「ビブリオバトル」「読み聞かせ」「調査・研究の発信」など

→学生が興味を持った活動を進めていきます

図書館や読書に関心のある学生が集まり、和気あいあいと研究しています。毎週必ず出席する必要はありません。学年も問いません。少しでも興味のある方は、ぜひ一度参加してみてください。



奈良大学図書館情報学研究会
公式Facebook

活動責任者
奈良大学文学部文化財学科(司書課程担当)
教授 嶋田 学

学生選書ツアー秋を開催しました

11月28日、夏に引き続き、ジュンク堂書店奈良店にて学生選書ツアー秋を開催しました。今回は5名の学生が参加し、楽しみながらも真剣に図書を選ぶ姿が印象的でした。

前回と同様に参加の皆さんにPOPを作成してもらいました。2月中旬より図書館入口フロアの学生選書コーナーに展開しています。貸出もできますので、ぜひご利用ください。

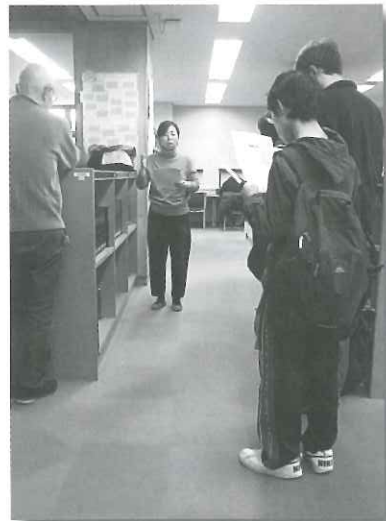
今後のイベントとしてツアー開催会場のジュンク堂書店奈良店にて、奈良大学学生選書フェアを企画予定です。また今後も選書ツアーは継続して実施していく予定です。

今回参加できなかった方、また新たに参加してみたいと考えている方、楽しみに待っててください。



多読ノススメ、開催

12月16、17、18、20日の4日間、昼休みの時間に山本准教授と西出教授による「多読ノススメ」を開催しました。日頃は聞けないような多読に関する悩みがある人や、英語学習のきっかけをつかみたい人に向けて、先生方が優しくわかりやすい解説をしてくださいました。参加のみなさんが熱心に先生に質問したり、アドバイスを受ける姿がみられ、有意義な時間を過ごせた様子でした。今後の開催も計画していますので、この機会を逃した方も、次回はぜひご参加をお待ちしております。



奈良大学図書館情報学研究会とのコラボ企画

トップページにご執筆をいただいた嶋田教授のもと、令和元年10月より発足した奈良大学図書館情報学研究会—NATOKEN—と図書館でコラボしてみませんか、という提案から、1月の企画展示が実現しました。

「ホッとひといきついでみませんか？」レポート提出や試験前の勉強の合間に、リラックスできるようにと、有志のみなさんがテーマを考え、図書を選びました。POPやポスター作成も初めての経験で、スタッフからのレクチャーを受けながら、協力して展示を創り上げ、目標としていた日程で完成させることができました。もうご覧になりましたか？

これからも NATOKEN のみなさんとはコラボしたり、図書館でのイベント企画への参加など、様々な活動を一緒にやっていきたいと考えています。少しでも興味がある方は、ぜひご参加ください。



図書館企画展「越境する女性作家たち—内地から外地、そして戦前から戦後へ—」

図書館企画展「越境する女性作家たち—内地から外地、そして戦前から戦後へ—」は、令和2年3月23日（月）まで開催中です。

本企画展では、一般的な文学史ではあまり取り上げられることのなかった、「外地」へ渡った女性作家たちの著作にスポットを当てています。戦前、日本が支配下においた台湾・朝鮮、そして満洲、中国、樺太および委任統治領だった南洋などの地域（＝外地）において、女性作家たちがどのような体験をし、戦争にどのように向き合ったのか。そして戦後日本においてはどのように生き、いかに戦前・戦中の体験を作品化したのか。彼女たちの著作を中心に紹介しています。

また、特別コーナーでは奈良大学図書館蔵北村信昭コレクションのなかから、南洋パラオに関する資料を展示しています。



～奈良大学学生選書フェアを開催～

前号でお伝えした「学生選書ツアー夏」で選ばれた図書を、図書を選んだ学生たちが作成したPOPと一緒に展開する企画『奈良大学学生選書フェア』がツアー開催会場のジュンク堂書店奈良店にて開催されました。

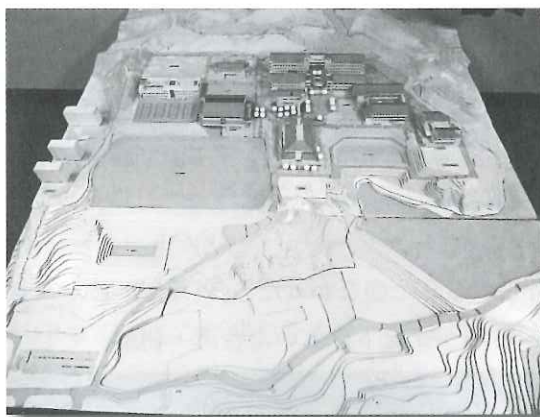
学生のみなさんには学生選書フェア用のPOPも作成してもらい、約1ヶ月の間レジカウンター横の棚に展開されました。

販売促進の効果のひとつとなれば、とジュンク堂書店奈良店からのご依頼で始まったこの企画ですが、これからも継続できたらと思っています。今後もお楽しみに！



奈良大学50周年『学びと研究の歩み』

11月期の企画展は、「奈良大学50周年『学びと研究の歩み』」と題し、今年度50周年を迎えた奈良大学の歴史とともに、歴代の学術雑誌や紀要などの関係資料を展示しました。なお、奈良大学建設当初の模型や、看板、記念品等もあわせて展開されました。



後記

4月から駆け抜けてきたという感が強い2019年度でしたが、もうすぐ終わろうとしています。平成から令和への移り変わりとともに、今年度は図書館も変革への準備期間だったように思えます。NATOKENのみなさんとの活動もどんなことができるか期待しつつ、次年度は変革を遂げる（予定の）図書館を見守っててください。

本誌発行にご協力いただきました文化財学科嶋田教授、国文学科光石教授、木田教授に深く感謝いたします。次号は、2020年夏ごろ発行予定です。 (編集担当)

発行：令和2年2月21日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500